

2022 年度

事業報告

〔 自 : 2022 年 4 月 1 日
至 : 2023 年 3 月 31 日 〕



公益財団法人 在宅医療助成

勇美記念財団

I. 基本方針

2022年度は、コロナ禍の影響により開催の延期を余儀なくされていた「財団設立20周年記念式典」を9月19日にようやく開催することができ、設立からの20年を振り返ると同時に今後の20年に向けて財団として何を行うべきかを、改めて考える機会となった。

式典の中では、理事長より財団の原資である株式会社オートバックスセブンによる20年間という長期に渡る安定的な配当に感謝しつつ、これからの20年、つまり団塊ジュニア世代がすべて65歳以上となる2040年（65歳以上の人口が4000万人、85歳以上の人口が1000万人となり、国内の死亡者数が160万人超と予測される）に向けて財団が取り組むべき課題（以下の資料参照）を説明した。

これからの20年（2040年）に向けて、 当財団が取り組むべき課題

課題	内容
1. 更なる在宅医療の提供体制の拡大	① 0歳から100歳までの対応を可能とする在宅医療提供体制の確立
	② 全世代型地域包括ケアシステムの構築
2. これからの在宅医療を担う人材の育成	① 若手医師を含めた、在宅医療を実践する医師の育成
	② 在宅医療を理解し、在宅ケアを担う多職種の育成
3. 在宅医療の質の向上	① 在宅医療に関する学術的研究、論文化への取組みの強化
	② 在宅医療の標準化の検討
4. 行政、関係機関等との連携強化	① 2024年4月からの第8次医療計画（地域の実情に応じた医療提供体制の確保・かかりつけ医の機能の明確化・医療介護連携等）実施に向けた行政、関係機関等との連携強化

※「財団設立20周年記念式典（2022年9月19日開催）」の開会挨拶スライドより

そこで今後（当面）の財団の管理運営方針として、従来実施してきた事業の実施を踏襲しつつ、財団の原点を見つめ直しながら、改めて財団の理念等の再考をするとともに、これからの財団の役割とそれを果たすための事業を実施していくべきとした。

併せて、今後の財団の方向性を関係者のみならず、世間に広く示すためにロゴデザインを刷新し、11月23日に開催した在宅医療推進フォーラムの開会の挨拶の中で、理事長より新ロゴデザインを紹介した。



公益財団法人 在宅医療助成
勇美記念財団

【刷新した新ロゴデザイン】

II. 管理運営方針

公益財団法人として関係法令等を遵守し、適切な管理および事業運営ができるよう努めた。また定款に定められた事業について、当事業計画に基づき各事業を実施した。

1. 公益財団法人として求められる要件整備に努めた。

- (1) 公益法人の財務三基準（収支相償・遊休財産・公益事業比率）を達成した。
- (2) 基本財産運用益のうち、基本財産受取配当金の80%超を公益目的事業に充てた。
- (3) 適時適切に理事会、評議員会、専門部会、その他の委員会を開催するよう努めた。
- (4) 事務局体制を強化し、適切な財団運営および事業実施ができるよう努めた。

2. 事務局の体制を強化し、事業運営の基盤強化に努めた。

- (1) 人員を確保し、適切な労務管理および人事管理に努めた。また、そのために人事制度導入の準備を開始した。(2024年度より運用開始予定)
- (2) 適切な経理処理および会計業務を行い、月次の管理を行えるように努めた。
- (3) 積極的にICTの導入を図り、少人数でも効率的に業務が行えるよう努めた。主なものは以下のとおり。
 - ①在宅勤務を行うための環境設定（機材整備やセキュリティ確保など）
 - ②基盤データベースシステム（ホームページ上の各種申込等との連動など）
 - ③公募助成システムの改訂 など

III. 事業報告

2022年度事業計画に従い、以下の事業を行った。

1. 公募助成事業（公益目的事業1、2）

公益目的事業1（提供者側・利用者側双方の視点からの在宅医療等に関する調査研究への助成）と公益目的事業2（在宅医療等に関する人材養成のための研修及びセミナーなどの事業への助成）として、以下のとおり公募助成事業を行った。なお、2022年度から「勇美記念財団公募助成システム」を導入・活用することで、申請者の申請や事務局と採択者との連絡等が以前に比べ簡便に、且つ効率的に行えるようになった。

(1) 前期公募助成

応募期間：2022年4月8日（金）～5月31日（火）

公募内容：

- ①公益目的事業1（在宅医療等推進のための調査研究等への助成）
 - (i) 一般公募「在宅医療推進のための研究」【予算：2,300万円】
 - (ii) テーマ指定公募【予算：1,100万円】

- ・「在宅医療における感染症対策に関する調査研究」
- ・「入院医療から在宅医療移行期における多職種連携による円滑な退院支援システム等構築のための研究」
- ・「在宅医療における食支援のための研究」
- ・「在宅医療推進の中で、在宅療養者を支える介護職の役割と課題、専門性にかかる研究」
- ・「在宅医療の質に関する研究」

②公益目的事業2（在宅医療等推進のための普及啓発、人材育成等への助成）

- (i) 在宅医療における感染症対策の教育及び啓発等への助成【予算：150万円】
- (ii) 市民の集い開催への助成【予算：500万円】
- (iii) 在宅医療推進のための多職種連携研修会への助成【予算：500万円】
- (iv) 在宅医療推進のための学会等への助成【予算：800万円】
- (v) 在宅医療推進に寄与するモデル的な研修プログラム構築のための助成【予算：250万円】

- ・全国を視野においた病院医師、臨床研修医、開業医等を中心とした在宅医療に関するモデル的な研修
- ・全国普及を目指すにふさわしい在宅医療、介護に関する市町村職員、専門職研修プログラム開発のためのモデル的な研修

選考：第1回選考委員会（委員長：柳田邦男氏）にて

開催日 2022年7月15日（金）

方法 会場開催とオンライン開催のハイブリッド開催

会場 都市センターホテル

申請および採択件数、助成金額：表1のとおり

〔表1：2022年度（前期）公募助成の採択件数および助成額〕（単位：円）

区分	公募名	予算	応募件数	採択件数	助成額
公益目的事業1	一般公募	23,000,000	70	(注) 27	(注) 24,679,778
	テーマ指定公募	11,000,000	22	9	8,289,698
公益目的事業1 計		34,000,000	92	(注) 36	(注) 32,969,476
公益目的事業2	「感染症対策」	1,500,000	5	5	1,582,400
	「市民の集い」	5,000,000	10	8	2,399,780
	「多職種研修会」	5,000,000	14	13	5,959,778
	「学会等への助成」	8,000,000	15	15	8,344,400
	「モデル研修」	2,500,000	3	1	2,500,000
公益目的事業2 計		22,000,000	47	42	20,786,358
合計		56,000,000	139	(注) 78	(注) 53,755,834

(注) 採択後の辞退により助成金が未交付となったもの（1件 1,029,753円）は含めていない。

(2) 後期公募助成

応募期間：2022年11月1日（火）～12月9日（金）

※論文枠のみ12月2日（金）まで

公募内容：

①公益目的事業1（在宅医療等推進のための調査研究等への助成）

(i) 一般公募「在宅医療推進のための研究」【予算：2,300万円】

(ii) テーマ指定公募【予算：100万円】

・「在宅医療における感染症対策に関する調査研究」

(iii) 一般公募「在宅医療推進のための研究」（論文枠）【予算：1,200万円】

(iv) テーマ指定公募「在宅医療における感染症対策に関する調査研究」

【予算：1,200万円】

- ・在宅医療現場における医療介護従事者への暴力やハラスメントを防止するための研究
- ・施設における看取りを全国各地で進めるための戦略についての研究
- ・介護支援専門員（ケアマネジャー）を対象とした在宅医療研修の有効性についての研究

②公益目的事業2（在宅医療等推進のための普及啓発、人材育成等への助成）

(i) 在宅医療における感染症対策の教育及び啓発等への助成【予算：150万円】

(ii) 市民の集い開催への助成【予算：500万円】

(iii) 在宅医療推進のための多職種連携研修会への助成【予算：500万円】

(iv) 在宅医療推進のための学会等への助成【予算：800万円】

(v) 在宅医療推進に寄与するモデル的な研修プログラム構築のための助成

【予算：250万円】

- ・全国を視野においた病院医師、臨床研修医、開業医等を中心とした在宅医療に関するモデル的な研修
- ・全国普及を目指すにふさわしい在宅医療、介護に関与する市町村職員、専門職研修プログラム開発のためのモデル的な研修

選考：第2回選考委員会（委員長：柳田邦男氏）にて

開催日 2023年2月6日（月）17：00～19：00

方 法 会場開催とオンライン開催のハイブリッド開催

会 場 都市センターホテル

申請および採択件数、助成金額：表2のとおり（次ページ）

〔表 2：2022 年度（後期）公募助成の採択件数および助成額〕

（単位：円）

区分	公募名	予算	応募件数	採択件数	助成額
公益 目的 事業 1	一般公募	23,000,000	40	19	17,623,300
	テーマ指定公募	1,000,000	1	0	0
	一般公募【論文枠】	12,000,000	23	8	11,683,704
	テーマ指定【論文枠】	12,000,000	5	3	11,992,990
公益目的事業 1 計		48,000,000	69	30	41,299,994
公益 目的 事業 2	「感染症対策」	1,500,000	0	0	0
	「市民の集い」	5,000,000	23	17	4,275,797
	「多職種研修会」	5,000,000	14	8	3,700,000
	「学会等への助成」	8,000,000	21	19	8,400,000
	「モデル研修」	2,500,000	1	0	0
公益目的事業 2 計		22,000,000	59	44	16,375,797
合計		70,000,000	128	74	57,675,791

(3) 2022 年度（通期）の申請および採択件数、助成金額

〔表 3：2022 年度（通期）公募助成の採択件数および助成額〕

（単位：円）

区分	公募名	予算	応募件数	採択件数	助成額
公益 目的 事業 1	一般公募	46,000,000	110	(注) 46	(注) 42,303,078
	テーマ指定公募	12,000,000	23	9	8,289,698
	一般公募【論文枠】	12,000,000	23	8	11,683,704
	テーマ指定【論文枠】	12,000,000	5	3	11,992,990
公益目的事業 1 計		82,000,000	161	(注) 66	(注) 74,269,470
公益 目的 事業 2	「感染症対策」	3,000,000	5	5	1,582,400
	「市民の集い」	10,000,000	33	25	6,675,577
	「多職種研修会」	10,000,000	28	21	9,659,778
	「学会等への助成」	16,000,000	36	34	16,744,400
	「モデル研修」	5,000,000	4	1	2,500,000
公益目的事業 2 計		44,000,000	106	86	37,162,155
合計		126,000,000	267	(注) 152	(注) 111,431,625

(注) 採択後の辞退により助成金が未交付となったもの（1件 1,029,753円）は含めていない。

(4) 勇美賞

2019～20 年度の 2 年度分の助成対象者の完了報告書を対象とした勇美賞の選考を成果物評価委員会で行う予定だったが、コロナ禍の影響から調査研究等の終了に至っていない助成対象者がおり、開催は延期した。なお、終了していない助成対象者は期間の延長等、適切に調査研究等が終了できるよう対応している。

2. 公益目的事業3

公益目的事業3（テキスト等、在宅医療等に関する情報収集及び普及啓発事業の実施）として、以下の事業を行った。

（1）第18回在宅医療推進フォーラムの実施

毎年11月23日を「在宅医療推進の日」として、以下のとおり開催した。開催形式は、前回、前々回同様にコロナ禍の影響があり会場開催とオンライン開催のハイブリッド開催としたが、コロナ禍の影響が薄れたタイミングでの開催となったため、前回に比べて会場参加者数が増加した。

なお、開催に向けて企画運営委員会および企画運営小委員会（委員長：新田國夫氏）を開催し、テーマや開催趣旨、プログラム等の検討などを行った。

第18回在宅医療推進フォーラム

開催日：2022年11月23日（水）

場 所：東京ビッグサイト 国際会議場

※会場開催とオンライン開催（YouTube ライブにて同時配信）のハイブリッド開催と、その後2023年3月31日までアーカイブ配信を行った。

テーマ：『やっぱり最高！わが家・わが町 ～在宅医療の未来を語ろう～』

共 催：国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
一般社団法人日本在宅ケアアライアンス（以下 JHCA）

参加者：会場参加 221名（第17回：158名）

うち招待者等 77名（出演者等含）

うち一般 144名（事前申込 206名）

オンライン参加

アクセス件数 1,436件（第17回：1,278件） ※当日時点

アーカイブ視聴 552件（2022年11月25日～2023年3月31日）

（2）全国11ブロックフォーラムの開催

2010年から一般社団法人全国在宅療養支援医協会（旧：全国在宅療養支援診療所連絡会、以後在支協）に協力を依頼し開催してきた事業。コロナ禍の影響により2020～21年度の開催は皆無だった。（2021年度は甲信越ブロックのみ開催した。）

事業開始から10年以上を経過し、より地域に密着した活動とするため、行政や医師会の管轄する地域に合わせて、これまでのブロック単位での開催から都道府県単位での開催に変更し、在支協と共に事業のあり方を再検討し、仕様書や実施要項を刷新して開催した。

※ブロックフォーラムの目的（仕様書から抜粋）

ブロックフォーラムは、都道府県の行政や医師会および訪問看護ステーション連絡協議会等と協働し、地域における在宅医療推進のために、医師・看護師・在宅ケアに関わる多職種および行政とのネットワークの構築と市民啓発を行うことを目的とする。

ブロックフォーラム開催実績

①北海道（北海道ブロックとして開催）

タイトル： 日本アドバンス・ケア・プランニング研究会 第7回年次大会
× 第11回北海道在宅医療推進フォーラム
開催日： 2022年9月10日（土）
開催方法： オンライン開催のみ
参加者： 516人

②栃木県

タイトル： 第1回ブロックフォーラム in とちぎ
わが街の在宅ケア～栃木から全国へ伝えたいこと～
開催日： 2023年2月11日（土）
開催方法： 会場開催とオンライン開催のハイブリッド開催
会場： 自治医科大学 地域医療情報センター大講堂
参加者： 会場参加 110人、オンライン参加 120人

③東京都（東京都ブロックとして開催）

タイトル： 第11回東京都在宅医療推進フォーラム
やっぱり最高！わが家、わが町を実現するために
～在宅医療の未来を語ろう～
開催日： 2022年12月17日（土）
開催方法： 会場開催とオンライン開催のハイブリッド開催
会場： AP 東京丸の内
参加者： 会場参加 20人、オンライン参加 275人

④新潟県（甲信越ブロックとして開催）

タイトル： 第9回 甲信越在宅医療推進フォーラム
第14回在宅ケアを考える集い in 越後 2022
多様化する社会を支える地域包括ケアシステムのあり方を考える
～つながりから共創へ～
開催日： 2022年11月6日（日）
開催方法： 会場開催とオンライン開催のハイブリッド開催

会 場 : 新潟県医師会館 3階大講堂
参加者 : 会場参加 41人、オンライン視聴 1,100回

⑤京都府

タイトル : 第1回京都府在宅医療推進フォーラム
「やっぱり最高！わが家・わが町」を実現するために～在宅医療の
未来を語ろう～
開催日 : 2023年3月12日(日)
開催方法 : 会場開催+オンデマンド配信
会 場 : 歴彩館1階小ホール
参加者 : 会場参加 108人、オンライン視聴 245回

⑥熊本県(九州ブロックとして開催)

タイトル : 第11回九州在宅医療推進フォーラム in 熊本「在宅医療の未来を
拓く」
開催日 : 2022年10月29日(土)～30日(日)
開催方法 : 会場開催とオンライン開催のハイブリッド開催
会 場 : 熊本市医師会館
参加者 : 会場参加 220人、オンライン参加 260人

⑦長崎県

タイトル : 2022年ブロックフォーラム
「わが家、わが町の地域包括ケアは？～利用者・患者の側からみると」
開催日 : 2022年11月14日(月)
開催方法 : 会場開催とオンライン開催のハイブリッド開催
会 場 : 長崎ブリックホール3階会議室
参加者 : 会場参加 23人、オンライン参加 123人

⑧沖縄県

タイトル : 沖縄在宅医療推進フォーラム2022
多職種の間とつくるわがまちの在宅医療～沖縄の未来を語ろう～
開催日 : 2023年2月4日(土)～5日(日)
開催方法 : 会場開催とオンライン開催のハイブリッド開催
会 場 : 沖縄県医師会館 大ホール・会議室
参加者 : 会場参加 166人、オンライン参加 365人

(3) 在宅医療関連講師人材養成事業(厚生労働省委託事業)

2015年度から、厚生労働省より「在宅医療関連講師人材養成事業(高齢者を対象とした在宅医療分野)」を受託事業として行ってきたが、2022年度は高齢者を対象とした

在宅医療分野だけでなく、他団体が受託していた小児在宅医療分野と訪問看護分野を一体化したものとして実施する仕様に変更されたため、当財団では実施困難と判断し、応札せず、当事業は実施しなかった。

(4) 在宅医療等に関する普及啓発事業①

(在宅医療に関する冊子、ポスター、DVD等の作成及び配布)

在宅医療等の普及啓発のために、以下の冊子やDVDを作成し、希望する人に無料で配布した。なお、財団のホームページの刷新時にシステム構築を行い、ホームページから申込みをした場合、申込者のプロフィールや申込み内容等のデータを自動的に蓄積し、その後の財団の事業運営に効率的に役立てられるようになった。

冊子

①在宅医療テキスト（第3版）

発行年月： 2015年11月（第1版：2006年4月）

発行部数： 60,000部（第1版から延253,000部）

配布数： 3,015部（624件）

②訪問看護活用ガイド（改訂版）

発行年月： 2012年9月（初版：2009年11月）

発行部数： 232,000部（初版から延342,000部）

配布数： 8,769部（681件）

※報酬単価等の時点更新は都度行ってきたが、改訂版の発行から10年が経過し、制度改正や新しいサービス等が記載されていないこともあり、刷新を行った。刷新にあたっては『「新版訪問看護活用ガイド」制作委員会』（委員長：佐藤美穂子氏）を開催し内容等を検討、決定した。2023年1月に完成・発行して7,000部を作成。改訂版の在庫がなくなり次第、新版の配布を行う予定。



〔刷新した新版の表紙〕

③病院から「家に帰りたい」という人のために

発行年月： 2008年11月

発行部数： 300,500部

配布数： 4,565部（586件）

④暮らしの健康手帳

発行年月： 2012年5月

発行部数： 497,000部

配布数： 5,570部（538件）

⑤【新】ともに歩む がん在宅医療

内 容 : がん患者の在宅療養を支援する際の職種別の役割や支援のための仕組みや制度等を紹介。具体的な事例も紹介している。

発行年月 : 2022年8月

発行部数 : 10,000部

配布数 : 7,123部(329件)

※編集・製作 : 一般社団法人日本在宅医療連合学会



〔表紙 (イメージ)〕

DVD

①地域で支える医療的ケア児～支援法制定と在宅医療～

作成年月 : 2021年11月

作成部数 : 800部

配布数 : 560部(91件)

※内容は、「第17回在宅医療推進フォーラム」で公開した映像をDVD化したもの。

②病気は家庭でなおすもの！～在宅医療助成 勇美記念財団の20年～

作成年月 : 2022年9月

作成部数 : 800部

配布数 : 539部(75件)

※内容は、「設立20周年記念式典」で公開した映像をDVD化したもの。

③鼎談『在宅で父を看取る』

作成年月 : 2022年9月

作成部数 : 300部

配布数 : 300部(配布終了)

※内容は、「設立20周年記念式典」のために2021年4月に東京都新宿区内で実施したものをDVD化したもの。

④ピンピンコロリって無理なん知っとう・4

～勇じいさんの胃ろういろいろものがたりPART2～

作成年月 : 2022年9月

作成部数 : 800部

配布数 : 653部(82件)

※内容は、「設立20周年記念式典」のために2022年7月に兵庫県神戸市内で上演したものをDVD化したもの。

(5) ゆうみカレンダー（2023年版）の作成および配布事業

在宅療養されている方に少しでも楽しく普段の生活を送っていただきたい、また在宅療養されている方やその家族と在宅療養を支える方とのコミュニケーションのツールの一つになればということを目的に、2023年版の干支（うさぎ）をモチーフにしたカレンダーを作成、配布した。

ゆうみカレンダー（2023年版）

作成部数： 53,000部（2021年度同様）

配布数： 52,750部（1,225件）

主な配布先：在宅で療養されている方やそのご家族
在宅医療を行っている診療所・病院、
訪問看護ステーション、地域包括支援
センター、居宅介護支援事業所、特別
養護老人ホーム、介護老人保健施設、
社会福祉協議会 など



〔表紙（イメージ）〕

※デザインはコンペを実施し、決定した。

(6) 在宅医療等に関する普及啓発事業②

（インターネット等を活用した在宅医療推進に係る情報提供のための事業）
インターネット等を活用し、在宅医療推進に関する情報提供等を行った。

①ホームページの刷新と充実

2022年9月にホームページを刷新し、明るく清潔感のあるデザインに変更するとともに、財団の紹介や実施している事業を掲載することで、医療や介護・福祉に従事するだけでなく、広く一般の方に財団をより認識し、事業内容等を理解して貰うことで在宅医療の普及がより図れるよう更新したりしている。併せて、問い合わせや冊子・DVDの申込み、在宅医療推進フォーラム等のイベントの申込みなどを円滑、且つ効率的に行えるシステムを導入した。

刷新後のホームページの主な掲載内容

- | | |
|-----------------|------------------|
| ・トップページ（お知らせなど） | ・催し物・イベント |
| ・財団について | ・教育・人材育成 |
| ・在宅医療について | ・調査研究・研究会 |
| ・公募助成 | ・在宅医療推進のための資料 など |

②SNSの活用

従来、財団ではSNSを活用した情報発信としてTwitterを利用していたが、ほとん

ど活用できていなかった。しかし、「設立 20 周年記念式典」の開催を広報するためにそれまでの Twitter に加え、Facebook の利用も開始した。以降はその両者を活用して、財団がより認知されるよう、また財団の情報等を適時広報している。

・ Twitter (2011 年 6 月からアカウントを所持)

URL : <https://twitter.com/yuumizaidan>

・ Facebook (2022 年 7 月からアカウントを所持)

URL : <https://www.facebook.com/profile.php?id=100084613870669>

(7) 在宅医療推進のための在宅医療に係るデータ開発

JHHCA に委託して実施した。

JHHCA では、在宅医療に関わる様々な専門職団体、学術団体等の代表者からなる委員会を開催し、2021 年度は JHHCA に加盟する 19 団体から収集した 80 ファイルの内容を明らかにして、そのデータ活用に関する課題を 25 項目にわたって抽出した。2022 年度は、収集したデータを様々な職種や団体等の横断的利活用ができるようになることを目的に以下の事業を実施した。

- ①厚生労働省医政局の保管する在宅ケアに関わる多職種のデータ（中央社会保険医療協議会の資料として公開されているもの）の整理
- ②収集したデータ活用に向けたデータの種別マッピング
- ③在宅ケアの質に関する専門職・専門領域別の評価指標の収集
- ④データの整理と公開のためのウェブページの設計の検討

2023 年度は、収集したデータを利用するためのプラットフォーム構築を進める予定。

(8) 小児在宅医療の普及および啓発（国際小児シンポジウム会議の共催）

一般社団法人日本小児在宅医療支援研究会と共催して、小児在宅医療に関する国際小児シンポジウムを開催した。なお、開会式で理事長が挨拶を行った。

小児在宅医療の分野は、2021 年 6 月に医療的ケア児支援法が成立し、急速に社会的基盤が整いつつある。このような節目にあたり、わが国以外の諸外国では、小児在宅医療やその主たる対象となる医療的ケア児や重症心身障害児の支援がどのような状況にあるのかをウェブを活用した国際シンポジウムを開催して、看護、福祉、学校でのケアについて各国よりそれぞれの分野について報告を行い、世界の状況を理解するとともに、わが国の課題や今後の方向性について議論、検討を行った。

小児在宅医療国際シンポジウム

開催日 : 2022 年 9 月 4 日 (日)

場 所 : 東京ビッグサイト レセプションホール

※会場開催とオンライン開催のハイブリッド開催

テーマ : 『小児在宅医療新ステージへ—全ての子どもが輝く未来のために—』

共 催 : 一般社団法人日本小児在宅医療支援研究会

プログラム： ①国際シンポジウムⅠ「世界の医療的ケア児支援」（同時通訳付き）
②国際シンポジウムⅡ「日本の医療的ケア児支援の展望」

参加者： 約 600 名

（9）財団設立 20 周年記念事業（「設立 20 周年記念式典」の開催）

当初、財団設立 20 年目の年である 2020 年 7 月に開催を予定していた「財団設立 20 周年記念式典」だが、コロナ禍の影響により 5 度の開催延期を経て 2022 年 9 月 19 日（月）にようやく開催した。しかし当日はあいにく台風接近という天候に見舞われ、会場での出席を希望されていた方の多くがキャンセルやオンラインでの参加となってしまったことは残念だった。

プログラムでは、初代理事長である住野勇名誉理事長を偲びつつ、また株式会社オートボックスセブンによる 20 年間という長期に渡る安定的な配当に感謝するたまた代表取締役社長執行役員 堀井勇吾様にご登壇いただき、感謝状を授与した。

また、「設立 20 周年記念映像」、「鼎談」、「寸劇」の映像をそれぞれ DVD 化し、記念に参加者や関係者等に配布した。併せて、名誉理事長が大切にしていた言葉、思いである『感謝』の文字をレイアウトしたカステラを配布し、好評を得た。

設立 20 周年記念式典

開催日： 2022 年 9 月 19 日（月・祝）

場所： ※会場開催とオンライン開催（YouTube ライブにて同時配信）のハイブリッド開催と、その後 2022 年 12 月 31 日までアーカイブ配信を行った。

テーマ： 『これまでの 20 年、これからの 20 年』

プログラム： 住野勇名誉理事長を偲んで

開式挨拶

来賓挨拶

感謝状授与：株式会社オートボックスセブン

設立 20 周年記念映像

『病気は家庭でなおすもの！～在宅医療助成勇美記念財団の 20 年～』

鼎談『在宅で父を看取る』

寸劇『ピンピンコロリって無理なん知っとう・4

～勇じいさんの胃ろういろいろものがたり PART 2～』

財団の歩みと今後について

閉式

参加者： 会場参加 49 名（出演者を含む）



【カステラに書いた『感謝』の文字】

3. 公益目的事業4

公益目的事業4（その他在宅医療等の推進のために必要な事業の実施）として、以下の事業を行った。

(1) 在宅医療推進のための会

2002年から開催している自主事業の会。

在宅医療を先駆的に実践している医師を中心に、在宅医療の担い手だけでなく、厚生労働省をはじめ行政職員、医療や経済学などの研究者も交え、国内に真の在宅医療を広めるための実践報告や検討、提言のための協議などを4回にわたり開催した。

2022年度在宅医療推進のための会

- ・座長： 蘆野吉和氏（山形県庄内保健所 所長）
- ・委員数： 62人（行政職員、オブザーバーを除く）
- ・第1回 日時：2022年6月3日（金）
方法：オンライン開催
テーマ：感染症を念頭においた地域包括ケアシステムの構築に向けて（続）
- ・第2回 日時：2022年9月9日（金）
方法：会場開催とオンライン開催のハイブリッド開催
（会場：ステーションコンファレンス東京）
テーマ：在宅医療における安全管理とは
- ・第3回（小児在宅医療推進のための会、大阪分科会との合同開催）
日時：2022年12月9日（金）
方法：会場開催とオンライン開催のハイブリッド開催
（会場：ステーションコンファレンス東京）
テーマ：医療的ケア児の学校教育環境の構築と充実を目指して
- ・第4回 日時：2023年3月3日（金）
方法：会場開催とオンライン開催のハイブリッド開催
（会場：ステーションコンファレンス東京）
テーマ：施設看取りの普及に向けて

(2) 小児在宅医療推進のための会

2010年から開催している自主事業の会。

わが国の小児在宅医療において先駆的に活動している医師や看護師、行政職員などが集まり、小児在宅医療に関心が乏しい関係者の意識を変え、より関心と理解を広めることを目的に実践報告や検討、提言のための協議などを3回にわたり開催した。また、この小児在宅医療推進のための会を運営するためのコアメンバー会議も設置されており、3回にわたり開催した。

2022年度小児在宅医療推進のための会

- ・座長：前田浩利氏（医療法人はるたか会 理事長）
- ・委員数：38人（行政職員、オブザーバーを除く）
- ・第1回 日時：2022年5月13日（金）
方法：オンライン開催
テーマ：小児在宅医療における災害対策
- ・第2回（大阪分科会との合同開催）
日時：2022年10月21日（金）
方法：オンライン開催
テーマ：医療的ケア児支援
- ・第3回 日時：2022年12月9日（金）
方法：オンライン開催
テーマ：医療的ケア児のレスパイトケア 特にショートステイについて

2022年度小児在宅医療推進のための会（コアメンバー会議）

- ・座長：前田浩利氏（医療法人はるたか会 理事長）
- ・委員数：16人（小児在宅医療推進のための会の委員から選出）
- ・第1回 日時：2022年7月22日（金）
方法：オンライン開催
テーマ：医療的ケア児支援センターについて
- ・第2回 日時：2022年11月4日（金）
方法：オンライン開催
話題：最近の小児在宅医療のトレンドの話題について
- ・第3回 日時：2023年2月24日（金）
方法：オンライン開催
話題：現在の小児在宅医療を取り巻く状況

（3）小児在宅医療推進のための会（大阪分科会）

小児在宅医療推進のための会の関西地区における分科会として2015年から開催している会。

関西地区の小児在宅医療を推進し、医療的ケア児をどのように支えるかをテーマに、医療的ケア児とその家族の生活の質を守り向上させることなどを目的に実践報告や意見交換などを2回にわたり開催した。

小児在宅医療推進のための会（大阪分科会）

- ・座長：位田忍（大阪母子医療センター 臨床検査科主任部長／
大阪府移行期医療支援センター センター長）
- ・委員：40人（行政職員、オブザーバーを除く）

- ・第1回 日 時：2022年7月8日（金）
方 法：オンライン開催
テーマ：医療的ケア児支援センターについて
- ・第2回 日 時：2023年2月10日（金）
方 法：会場開催とオンライン開催のハイブリッド開催
（会場：AP 大阪茶屋町）
テーマ：医療的ケア児支援センターの活動実際

（4）在宅医療の今後の展望に必要な先駆的・モデル的基盤整備事業

JHHCA に委託して実施した。

JHHCA では、今後の在宅医療推進の重点課題について「大都市圏の在宅医療」、「小児在宅医療」、「食支援」の3つの分野を挙げ、それぞれの委員会を開催し、課題の抽出やその課題解決に向けた検討を行った。

その結果、「大都市圏の在宅医療」では様々な地域の連携の好事例やモデル事例を調査検討し、連携自体の不足だけでなく、連携の際に生活（「暮らし」）を支える視点の不足などの課題を明らかにした。「小児在宅医療」では、支援に必要な様々な機関の連携等について調査検討し、連携の困難さを明らかにした。また、小児在宅医療の当事者（主に保護者）にヒアリングも行った。「食支援」では様々な地域で先駆的に行われている事例を収集し、生活（「暮らし」）を支える多職種連携による事例だけでなく、民間企業との連携など地域作りにも繋がる事例があることも明らかにした。

（5）災害・パンデミックにおける在宅医療の支援モデルの構築と普及啓発

JHHCA に委託して実施した。

JHHCA では在宅医療従事者や行政職員などの有識者からなる委員会を開催し、2021年度に在宅療養者等を守るために医療従事者が参考とすべきガイドラインとして策定した「新型コロナウイルス感染症の自宅療養者に対する医療提供プロトコール」等の普及啓発を継続するとともに、感染状況の変化に応じて、適時必要な改訂増補を行った。

併せて、わが国は様々な自然災害等が発生しやすい災害大国であり、より広範な自然災害等の発生時に在宅医療を支援する体制を維持すること、そして在宅療養者の生命と被災後の生活（「暮らし」）を守るために、在宅医療における事業継続計画（BCP）の策定やその適用について検討を開始した。

IV. 委員会等開催

以下のとおり、理事会、評議員会等の委員会を開催した。

1. 理事会

開催年月日 および 方法・場所	議 事
第1回定時理事会 2022年6月2日(木) オンラインによる開催	[決議事項] ・2021年度事業報告書並びに同附属明細書の承認に関する件 ・2021年度計算書類及び同附属明細書並びに財産目録の承認に関する件 ・監事による会計監査の実施に関する件(2021年度監査報告) ・定時評議員会の日時および場所並びに目的である事項等に関する件 [報告事項] ・特定費用準備金の使用予定について(財団設立20周年記念事業) ・経森康弘氏の評議員、評議員選定委員の任期について ・2021年度事業報告書並びに同附属明細書の承認に関する件 ・2022年度(前期)公募助成の申込受付状況と計画の変更について ・2022年度第2回臨時理事会(決議省略)について 株式会社オートバックスセブン第75期定時株主総会における議決権行使と委任状提出の承認に関する件 ・2022年度第3回臨時理事会(決議省略)について 2022年度(前期)公募助成「在宅医療推進のための学会助成」において「第4階日本在宅医療連合学会大会」への助成承認に関する件
第2回臨時理事会 2022年6月17日(金) 決議の省略による開催	[決議事項] ・株式会社オートバックスセブン第75期定時株主総会における議決権行使の承認に関する件 ・株式会社オートバックスセブン第75期定時株主総会における議決権行使の委任状の提出の承認
第3回臨時理事会 2022年7月22日(金) 決議の省略による開催	[決議事項] ・2022年度(前期)公募助成「在宅医療推進のための学会助成」において「第4階日本在宅医療連合学会大会」への助成承認に関する件
第4回臨時理事会 2022年8月29日(月) 決議の省略による開催	[決議事項] ・2022年度(前期)公募助成への助成の承認に関する件

<p>第5回臨時理事会</p> <p>2023年2月25日(土)</p> <p>オンラインによる開催</p>	<p>〔決議事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度(後期)公募助成の承認について ・特定費用準備金(財団設立20周年記念事業)の取崩しについて ・専門部会の開催および諮問内容について <p>〔報告事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度の実績および実績見込について ・2021年度の収支相償について ・人事制度構築および導入について ・職員の基本給ベースアップについて ・啓発本の状況について
<p>第6回定期理事会</p> <p>2023年3月20日(月)</p> <p>オンラインによる開催</p>	<p>〔決議事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門部会に諮問した内容について ・2023年度事業計画および予算について ・職員給与規定の変更について <p>〔報告事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧問契約について

2. 評議員会

<p>開催年月日 および 方法・場所</p>	<p>議 事</p>
<p>第1回定時評議員会</p> <p>2022年6月17日(金)</p> <p>オンラインによる開催</p>	<p>〔決議事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度事業報告書並びに同附属明細書の承認に関する件 ・2021年度計算書類及び同附属明細書並びに財産目録の承認に関する2021年度監事監査報告 <p>〔報告事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定費用準備金の使用予定について(財団設立20周年記念事業) ・経森康弘氏の評議員、評議員選定委員の任期について ・2022年度(前期)公募助成の申込受付状況と計画の変更について

3. 選考委員会

<p>開催年月日 および 方法・場所</p>	<p>議 事</p>
<p>第1回選考委員会</p> <p>2022年7月15日(金)</p> <p>会場およびオンライン開催によるハイブリッド開催 (会場:都市センターホテル)</p>	<p>〔報告事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度(前期)公募助成の申請状況等について <p>〔検討事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度(前期)公募助成の選考について

<p>第2回選考委員会</p> <p>2023年2月6日(月)</p> <p>会場およびオンライン開催によるハイブリッド開催 (会場:都市センターホテル)</p>	<p>[報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度(前期)公募助成の申請状況等について <p>[検討事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度(前期)公募助成の選考について
---	--

4. 専門部会

<p>開催年月日 および 方法・場所</p>	<p>議 事</p>
<p>第1回専門部会</p> <p>2023年3月12日(日)</p> <p>オンラインによる開催</p>	<p>[諮問事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益目的事業1について <ul style="list-style-type: none"> (1) テーマ指定について (2) 一般公募助成(論文枠)について (3) 課題解決型実証研究(論文枠)について (4) 勇美賞について ・公益目的事業3について <ul style="list-style-type: none"> (1) ブロックフォーラムについて (2) 無料配布冊子「在宅医療テキスト(第3版)」について ・公益目的事業4について <ul style="list-style-type: none"> (1) 「在宅医療推進のための会」について ・その他 <ul style="list-style-type: none"> (1) 2023年度事業計画について (2) 委員改選について (3) 2023年度の開催について (4) その他